



会長 高橋 利光
幹事 山田 正
会報 鈴木 彦太 及川 勝永
後藤 益美

例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2609回例会 2017. 8. 17 No. 7

本日の出席率

・本日の出席率 100%

ニコニコボックス

- ・高橋利光会長 富士原裕子会員のスピーチに期待いたします。
- ・富士原裕子会員 本日は私のスピーチですが、息子にピンチヒッターを頼みました。どうぞよろしくお祈りします。
- ・鈴木彦太会員 富士原裕子会員のベテラン、ナイススピーチをご期待致します。
- ・布施孝之会員 高校野球、仙台育英の必勝を願って。
- ・飯塚仁哉会員 文学少女の裕子さん、今日のお話はお盆に相応しく霊界のお話でしょうかね。
- ・佐藤幸一会員 富士原裕子会員の息子のお話にご期待いたします。
- ・八谷郁夫会員 富士原裕子会員ご子息のスピーチ歓迎します。
- ・阿部泰彦会員 先日の「スポーツ振興大賞」受賞感謝の会に、高橋利光会長出席いただき有難うございました。富士原裕子会員のスピーチご苦労様。
- ・菅野幸一郎会員 富士原裕子会員のスピーチにご期待申し上げます。
- ・高田次雄会員 雨続きの盆、今年は比較的長い休み、長期休暇に馴れていない体には、休み疲れが残った様です。皆様方には如何だったでしょうか。本日のスピーカー富士原裕子会員、勉強させて下さい。
- ・菅原文之会員 本日のスピーカーは富士原裕子会員です。非常に世間が広い方です。楽しみにいつも聞いています。
- ・佐藤静市会員 富士原裕子会員のスピーチ楽しみに。
- ・猪股育夫会員 富士原裕子会員のスピーチに期待。
- ・布施孝尚会員 富士原貴行さんのゲストスピーチ、楽しみにしています。

- ・菅原慶一会員 富士原裕子会員のスピーチに期待。
- ・小野寺伸浩会員 52歳に何事もなくなってしまいました。
- ・杉田広仁会員 おかげさまで無事「みろく尊大祭」終了致しました。ご協力ありがとうございました。
- ・山田正幹事以下 本日のスピーチに期待して。
村上武彦会員 佐々木崇会員 千葉吉男会員
山田直志会員 佐竹孝行会員 遠藤光則会員
佐々木源悦会員 岩淵正彦会員 武川毅会員
熊谷敏明会員 及川昭宏会員 太田陽平会員
秋山茂夫会員 佐藤早智子会員 及川富男会員
千葉正宏会員 二階堂恭子会員
以上、ありがとうございました。

会長要件 高橋利光会長

白石ロータリークラブ1992-93年度パストガバナーの大野忠様が8月10日にご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

私が不在だったため、菅原慶一副会長と山田正幹事にご協議いただき、佐沼ロータリークラブとして弔電を送りました。

戻り梅雨のように、毎日雨が降っています。皆様にはお盆の期間、いかがお過ごしでしたでしょうか？私は、南アルプス縦走を楽しんできました。毎日一度はカッパを着る山歩きでしたが、時折のぞき見る3,000m級の雄大な山容に感動し、可憐な高山植物を愛でながら、心身ともにリフレッシュして参りました。

これから先は、ロータリー活動本番とも言うべき、大きな行事が目白押しです。是非皆様方と一緒にロータリー活動を楽しみたいと思います。ご協力、ご支援の程、重ねてお願い申し上げます。

幹事報告 山田正幹事

- ・ガバナー事務所より
危機管理委員会からの案内

- ・登米市絵本原画展実行委員会より
第18回登米市絵本原画展開場式の案内
日時 9月7日(木) 午前9時
場所 登米祝祭劇場 正面玄関ホール
- ・台北西門RCより、会報が届く
- ・東北風土マラソン&フェスティバル実行委員会より
「スポーツ振興大賞」受賞記念感謝の会出席に対するお礼状が届く

各委員会報告

- ・米山記念奨学会委員会 (佐々木源悦委員長)
財団設立50周年記念式典の案内
日時 30年2月4日(日) 10:00~
場所 グランドニッコー東京
登録締切りは9月30日(土)です。希望者は、幹事又は私の方までご連絡下さい。
- ・青少年奉仕委員会 (千葉正宏委員長)
第1回委員会開催のお知らせ
日時 8月30日(木)
議題 剣道大会、野球大会について

今週のスピーチ (担当：富士原裕子会員)

「終活について」

株佐沼葬儀社 社長 富士原貴行様

皆さん「終活」という言葉をご存知でしょうか。結構話題になっております。

これは、現代用語辞典等により「終焉を重んじて追求することで、今をより良く生きようとする活動のこと」とあります。又、この言葉は、2009年の夏に週刊朝日という週刊誌で、現代お葬式事情終活という連載記事の見出しとして使われたのがはじめとなっております。

終活の背景は、2013年の調査になりますが、それによりますと、終活が必要だと感じている60代以上の方は、52.5%と半数を超えています。終活という言葉を知ったことがないという方は、24.4%ですので、必要にかかわらず75%以上の方が終活という言葉を知っているということになります。

2009年に出来た言葉としては、短期間でここまで皆様に知られるということは、すごいことだと思います。そして、必要と思われる方も減っていません。これもすごいことだと思います。

何故、終活という言葉がここまで急進してきたのか。それは勿論、日本の高齢化という事情もありますが、具体的な数字で見たいと思います。平成26年度の総務省の調査では、全人口に対し65歳以上の方の割合は25.9%と4分の1を占めています。日本人4人が集まれば1人は必ず65歳以上ということになります。これは世界一の数字となっております。

世界的な平均で見ますと8%です。何故、日本は高齢化が進んだかと言いますと、1つは、医療水準が非常に高い、そして、社会保障、年金や介護保険がござります。これも世界的に見れば高い水準にあると思われれます。要するに日本は長生き大国、これは非常に喜ばしいことだと私は思います。

そして次に団塊の世代の方、戦後すぐに生まれた方です。戦争を耐え抜いた今の80~90代位の方々が、物のない時代を頑張って生き抜き、大体の方はそのバトンを引き継ぎ日本の発展に大きく貢献なさいました。非常に尊敬すべき世代の方々であります。

しかし、今の30代後半から40代位の方々は団塊世代の子供たちで、バブルの崩壊や経済成長の行き詰り等で不景気となり、あまり抵抗しない、子供を作らないということになってしまいました。結果として高齢化率が上がってしまいました。出生率は世界の下から数えて10番位です。

この様に高齢の人口が増えた、そして割合も増えたというのが終活が求められる社会的な事情のベースにあると思います。

核家族化、つまり夫婦と子供2人という家族形態が多くなり、そこから子供が独立したり、伴侶の方が亡くなられたり、健康状態を維持出来なくなったり、結果的にお一人様、お二人様という状況が多くなってきました。数字で見ますと、お一人の高齢者世帯は486万つまり486万人となります。高齢夫婦だけで暮らしてられる世帯は633万、1,266万人となり、日本の人口が1億2,700万人位ですので、14%位がお一人様又はお二人様ということになります。

これだけの方たちが家族と離れて暮らしていますので、万一の時はどうしようという気持ちが終活の必要を感じる背景となります。子供がいない家族も万一の時はどうしようかと不安を感じ、まわりに迷惑をかけたくないという心理があると思います。

だれもがエンディングを迎える訳ですが、様々な不安があると思います。お金のこと、介護のこと、これには病氣も含まれると思います。そしてご葬儀のこと、葬儀の後の供養のこと等々心配されています。こういったことが終活を必要とする要因になっていると思います。

つまり、終活は一過性のブームではなくて、日本の事情から必然的に生まれたものであります。自分の葬儀の費用は、自分で持つ、そういったことを自分が生きてうちに準備をし、万一の時、周囲に迷惑をかけることなく最後まで自分らしくしよう、不安なく生き生きと活動しようと考えて行われる活動が終活です。

私は、これは日本人の誇り高い精神から生まれた素晴らしい活動だと思います。

皆様は日頃から様々な備えをされておられることと思います。例えば、地震に対する備え、火の用心、事故、病氣等々です。確立で言えばこの様な事柄が起こるのは100%ではありません。100%でなくても皆様は心配で備えをしておられると思います。しかし、死を迎える確立は100%です。100%起こることに対して備えることは、自分自身、家族のために今できることをしておくということです。

— 以下、紙面の都合上割愛させていただきます。



ゲストスピーカー 富士原貴行様